



大日本塗料株式会社

2019年3月期決算説明会

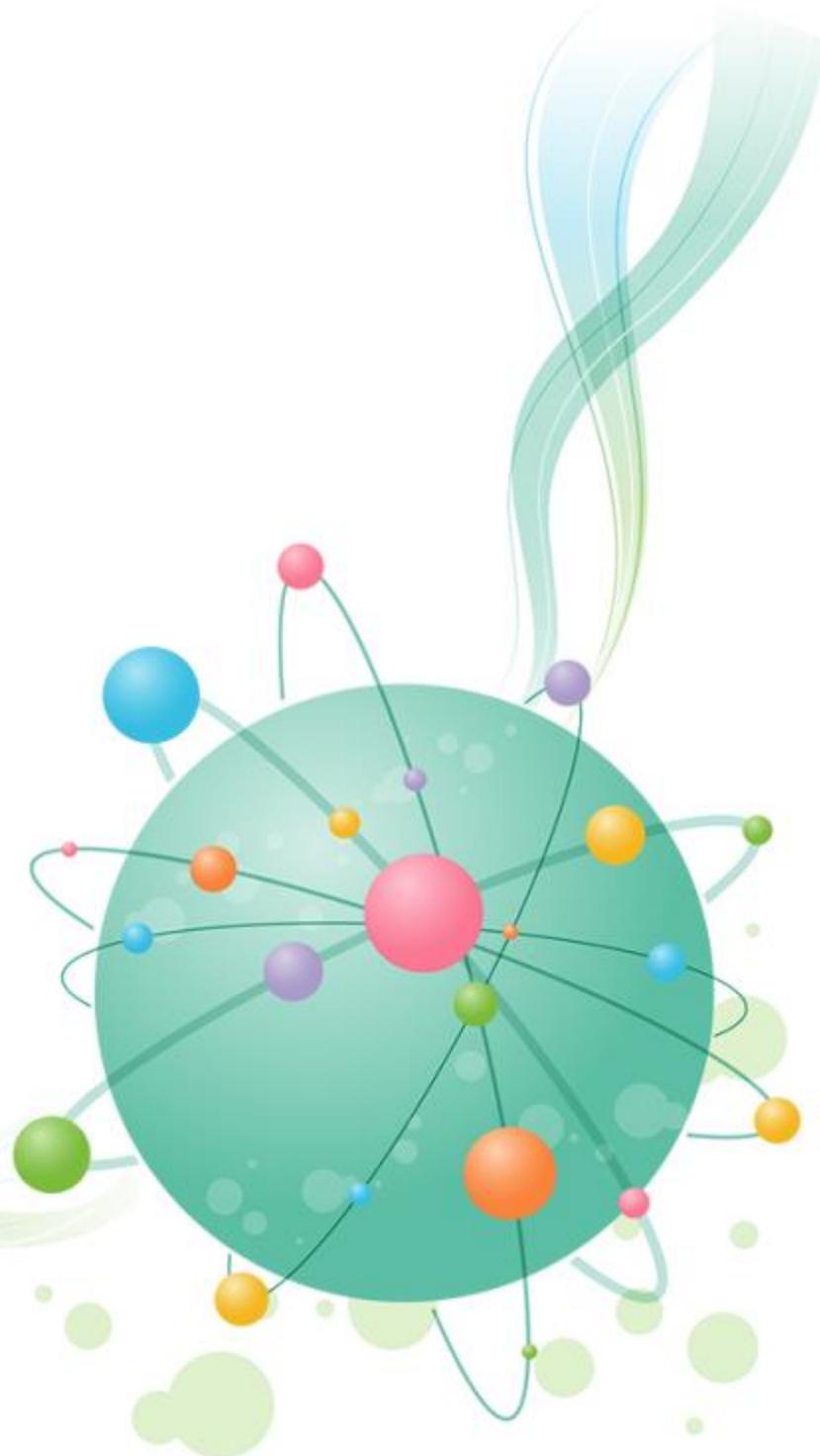
2019年5月30日

証券コード 4611 東証第一部



JPX-NIKKEI Mid Small

2016 - 2018年度選定





Part I . 決算実績・業績予想	P. 2
Part II . 経営戦略	P. 16
Appendix . 製品紹介、高機能塗料展出展 及び関連会社事業内容	P. 29

Part I . 決算実績・業績予想



1.DNTグループの概況



- 国内塗料は構造物塗料を中心に、建材塗料、金属焼付塗料（カーテンウォール）に強み
- 海外塗料は自動車部品用塗料を中心に、着実な成長を志向

海外塗料

- 自動車・プラスチック塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料



照明機器(DNライティング(株)/ニッポ電気(株))

- 業務用照明機器



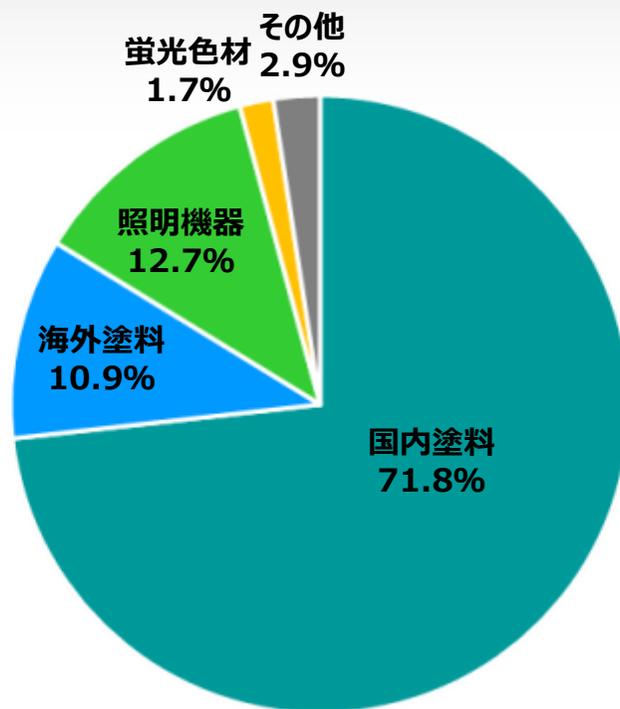
蛍光色材（シンロイヒ(株)）

- 蛍光塗料・反射塗料



売上構成 (2019年3月期)

連結売上高：73,743百万円



国内塗料

- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 自動車・プラスチック塗料
- 自動車補修塗料
- ジェットインク等



その他

- エンジニアリング
(日塗エンジニアリング(株))
- 物流
(ニットサービス(株))



2. 2019年3月期決算実績



① 決算概要総括

業界環境

- 原材料（石化製品および亜鉛・酸化チタン等主要顔料）の価格高騰によるマージン縮小が加速

売上面

連結売上高 73,743 百万円 前期比 △ 376 百万円 △ 0.5%	国内塗料	52,972 百万円	△ 401 百万円 △ 0.8%	■ 構造物分野では回復基調も、建材分野の低迷により、減収
	海外塗料	8,063 百万円	+ 103 百万円 + 1.3%	■ タイでは自動車部品分野、中国では輸送用機器分野で増収
	照明機器	9,377 百万円	△ 92 百万円 △ 1.0%	■ 蛍光灯分野の市場縮小が進み、減収
	蛍光色材	1,287 百万円	+ 11 百万円 + 0.9%	■ 加工品需要が堅調に推移し、増収

利益面

連結営業利益 6,039 百万円 前期比 △ 549 百万円 △ 8.3%	国内塗料	2,934 百万円	△ 532 百万円 △ 15.4%	■ 減収に加え原材料価格高騰により、減益
	海外塗料	1,190 百万円	△ 214 百万円 △ 15.3%	■ 高収益な北中米市場での減収に伴い、減益
	照明機器	1,238 百万円	+ 92 百万円 + 8.0%	■ 製造原価の低減が進展し、増益

2. 2019年3月期決算実績

②損益計算書 (P/L) (連結)



(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2018年3月期		2019年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	74,119	100.0	73,743	100.0	△ 376	△ 0.5	■ 国内塗料での減収が響く
売上総利益	22,813	30.8	21,833	29.6	△ 979	△ 4.3	■ 国内塗料、海外塗料、蛍光色材では原材料価格高騰の影響を強く受け、総利益率が低下
販売費及び一般管理費	16,224	21.9	15,794	21.4	△ 429	△ 2.6	■ 運送費、旅費交通費など削減
営業利益	6,588	8.9	6,039	8.2	△ 549	△ 8.3	
経常利益	6,392	8.6	6,210	8.4	△ 182	△ 2.9	■ クレーム・製品補償引当の減少 263
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,573	6.2	3,604	4.9	△ 968	△ 21.2	■ 投資有価証券売却益の減 589 ■ 本社移転に伴う減損損失 358
減価償却費	2,022	—	2,021	—	△ 1	△ 0	
設備投資額	1,868	—	2,571	—	702	38	

2. 2019年3月期決算実績

③セグメント別売上高・営業利益（連結）



(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2018年3月期		2019年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	74,119	100.0	73,743	100.0	△ 376	△ 0.5	
国内塗料	53,374	72.0	52,972	71.8	△ 401	△ 0.8	■ 構造物分野で市況回復も、建材分野で低迷
海外塗料	7,960	10.7	8,063	10.9	103	1.3	■ タイでは自動車部品分野、中国では輸送用機器分野で増収
照明機器	9,470	12.8	9,377	12.7	△ 92	△ 1.0	■ 蛍光灯分野の市場縮小が進み、減収
蛍光色材	1,275	1.7	1,287	1.7	11	0.9	■ 加工品の出荷増
その他	2,038	2.8	2,041	2.9	2	0.1	
営業利益	6,588	100.0	6,039	100.0	△ 549	△ 8.3	
国内塗料	3,466	52.6	2,934	48.6	△ 532	△ 15.4	■ 減収に加え原材料価格高騰の影響大
海外塗料	1,405	21.3	1,190	19.7	△ 214	△ 15.3	■ 高収益な北中米市場での減収に伴い減益
照明機器	1,146	17.4	1,238	20.5	92	8.0	■ 製造原価の低減が伸展
蛍光色材	119	1.8	74	1.2	△ 44	△ 37.2	■ 原材料価格高騰の影響大
その他	213	3.2	315	5.2	101	47.5	
調整額	236	3.7	285	4.8	48	20.6	

2. 2019年3月期決算実績

⑤貸借対照表 (B/S) (連結)



(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額	コメント
流動資産	33,432	35,388	1,956	
現金及び預金	4,428	5,871	1,443	
受取手形及び売掛金	18,561	18,387	△ 173	■ 国内△89、照明△25、蛍光+21、その他△79
たな卸資産	9,429	9,515	86	■ 国内△110、海外+81、照明+115
その他流動資産	1,014	1,614	600	
固定資産	42,723	43,491	768	
有形固定資産	22,499	22,446	△ 53	■ 設備投資による増加2,226、減価償却△1,860、減損損失△362 (うち本社移転に伴うものが△358)
無形固定資産	637	813	176	■ 設備投資による増加345、減価償却△160
投資その他の資産	19,586	20,231	645	■ 退職給付に係る資産の増加652
資産合計	76,155	78,880	2,724	
負債合計	32,806	33,796	990	
(借入金残高)	(1,991)	(3,237)	1,246	■ 設備投資による資金需要等への対応のため調達増 1,248
純資産合計	43,349	45,083	1,734	
負債純資産合計	76,155	78,880	2,724	

2. 2019年3月期決算実績

⑥ キャッシュ・フロー計算書（連結）



(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	5,315	4,358	△ 957	■ 主に営業利益悪化に伴うCF減
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 398	△ 2,470	△ 2,071	■ 定期預金△301、設備投資に伴う支出増△874、 投資有価証券売却収入減△737
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 4,747	△ 351	4,395	■ 借入金返済額の減少 4,549
現金及び現金同等物に 係る換算差額	133	△ 88	△ 222	
現金及び現金同等物の 増減額	303	1,448	1,144	
現金及び現金同等物の 期首残高	3,953	4,256	303	
現金及び現金同等物の 期末残高	4,256	5,704	1,448	

3. 2020年3月期業績予想



① 連結業績予想のポイント

売上面

連結売上高 75,000 百万円 前期比 +1,256百万円 +1.7%	国内塗料	53,550 百万円	+577百万円 +1.1%	■ 五輪直前需要、再開発需要の獲得
	海外塗料	8,150 百万円	+86百万円 +1.1%	■ タイでは自動車部品分野が続伸 ■ メキシコは新規顧客獲得で回復

利益面

連結営業利益 6,600 百万円 前期比 +560百万円 +9.3%	国内塗料	3,230 百万円	+295百万円 +10.1%	■ 売上拡大 ■ 前期実施の価格転嫁が通期寄与
	海外塗料	1,300 百万円	+109百万円 +9.2%	■ 高収益品の売上拡大を見込む

3. 2020年3月期業績予想

②損益計算書（P/L）業績予想（連結）



(単位：百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2019年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	73,743	100.0	75,000	100.0	1,256	1.7	■ 国内塗料の回復、照明機器の拡大
売上総利益	21,833	29.6	22,600	30.1	766	3.5	
販売費及び一般管理費	15,794	21.4	16,000	21.3	205	1.3	■ 本社移転に伴うコスト増
営業利益	6,039	8.2	6,600	8.8	560	9.3	
経常利益	6,210	8.4	6,600	8.8	389	6.3	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,604	4.9	4,000	5.3	395	11.0	■ 本社移転に伴う特別損失260を見込む
減価償却費	2,021	—	2,050	—	28	1	
設備投資額	2,571	—	3,500	—	928	36	■ 研究センターや中国新工場の手付金等

3. 2020年3月期業績予想

③セグメント別売上高・営業利益（連結）



(単位：百万円、%)

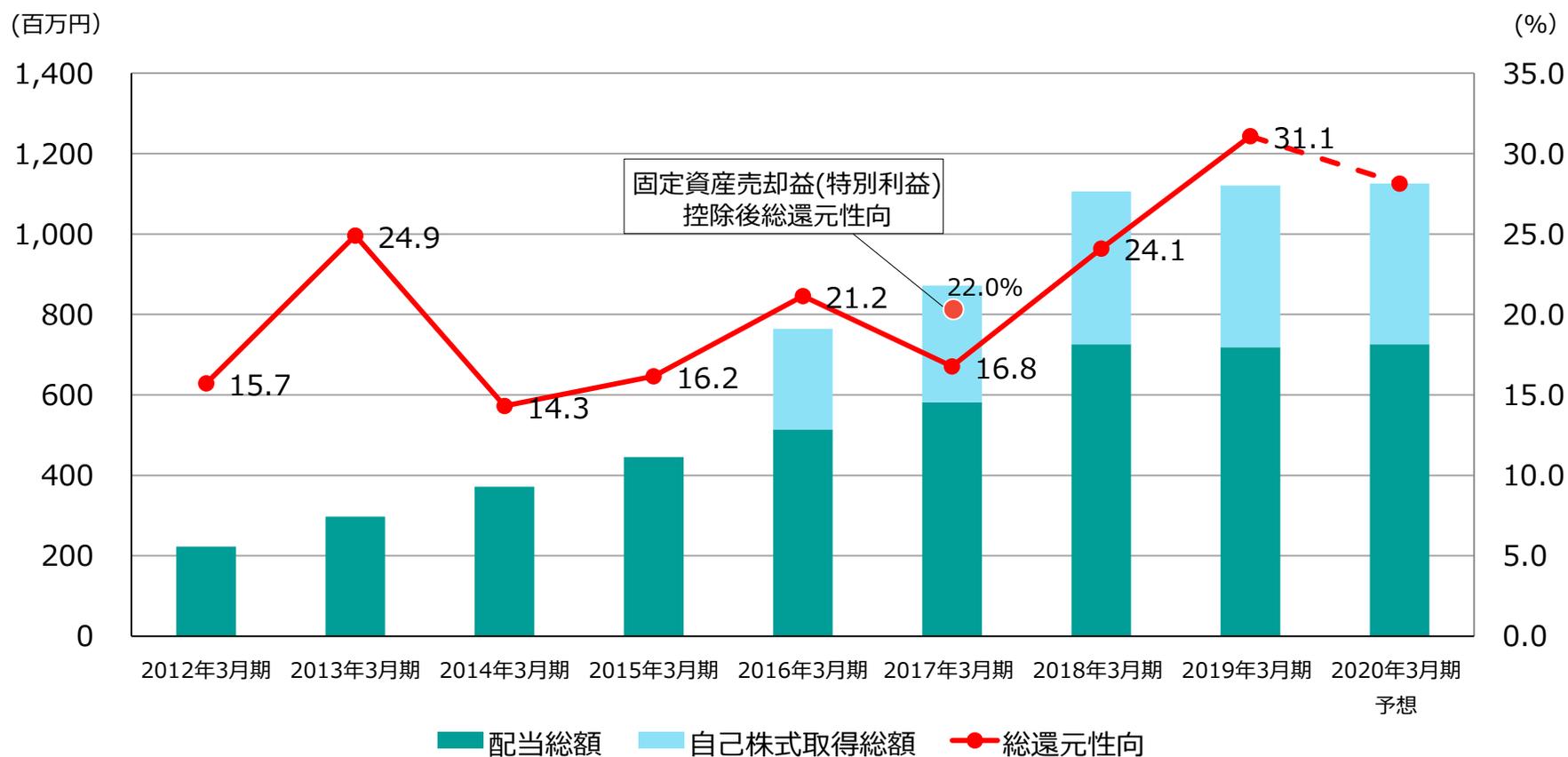
	実績		業績予想				コメント
	2019年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	73,743	100.0	75,000	100.0	1,256	1.7	
国内塗料	52,972	71.8	53,550	71.4	577	1.1	■ 首都圏中心にインフラ向け需要拡大
海外塗料	8,063	10.9	8,150	10.9	86	1.1	■ タイ、北中米市場で売上拡大
照明機器	9,377	12.7	10,000	13.3	622	6.6	■ 首都圏再開発中心に需要拡大
蛍光色材	1,287	1.7	1,370	1.8	82	6.4	■ 安全対策、環境配慮製品を拡販
その他	2,041	2.9	1,930	2.6	△ 111	△ 5.5	
営業利益	6,039	100.0	6,600	100.0	560	9.3	
国内塗料	2,934	48.6	3,230	48.9	295	10.1	■ 売上拡大および価格転嫁の通期寄与
海外塗料	1,190	19.7	1,300	19.7	109	9.2	■ 自動車部品分野の売上拡大
照明機器	1,238	20.5	1,400	21.2	161	13.0	■ 売上拡大と原価低減活動の継続
蛍光色材	74	1.2	130	2.0	55	73.5	■ 価格転嫁を推進
その他	315	5.2	260	3.9	△ 55	△ 17.6	
調整額	285	4.8	280	4.3	△ 5	△ 1.9	

4. 株主還元

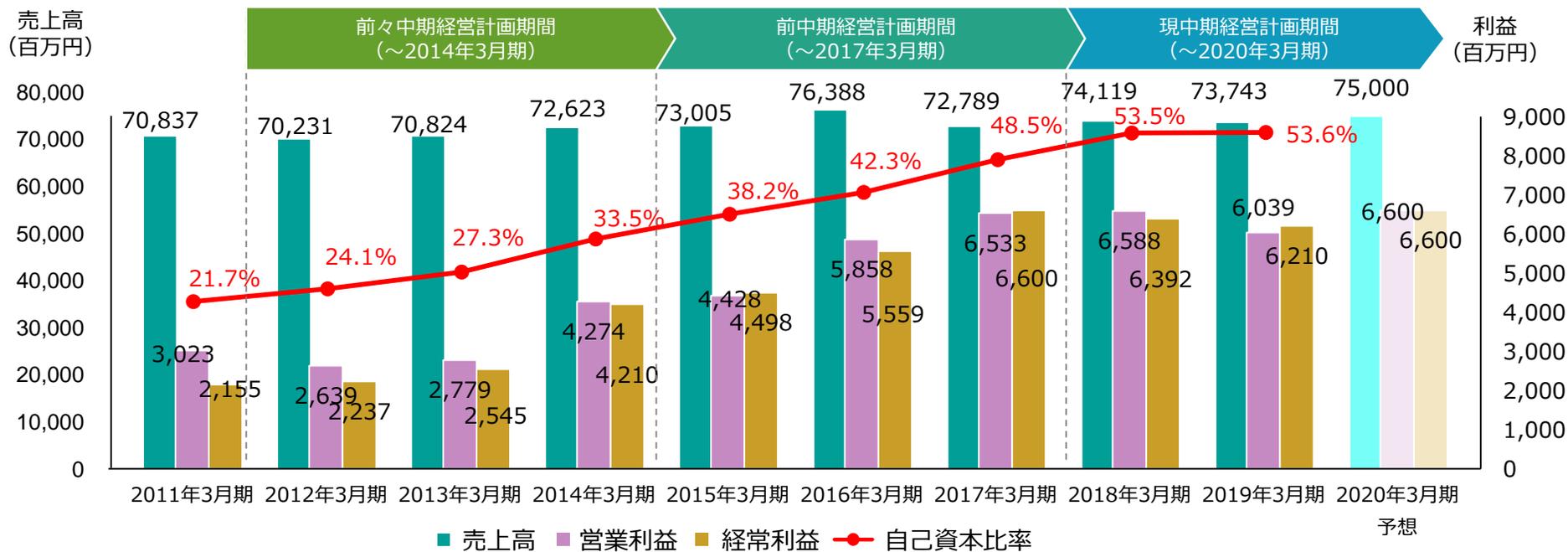


総還元性向推移

- 業績に連動した継続的な株主還元を着実に実施。2020年3月期は一株あたり25円配当を予定
- あわせて、2020年3月期は、30万株（400百万円）の自己株式を取得を予定

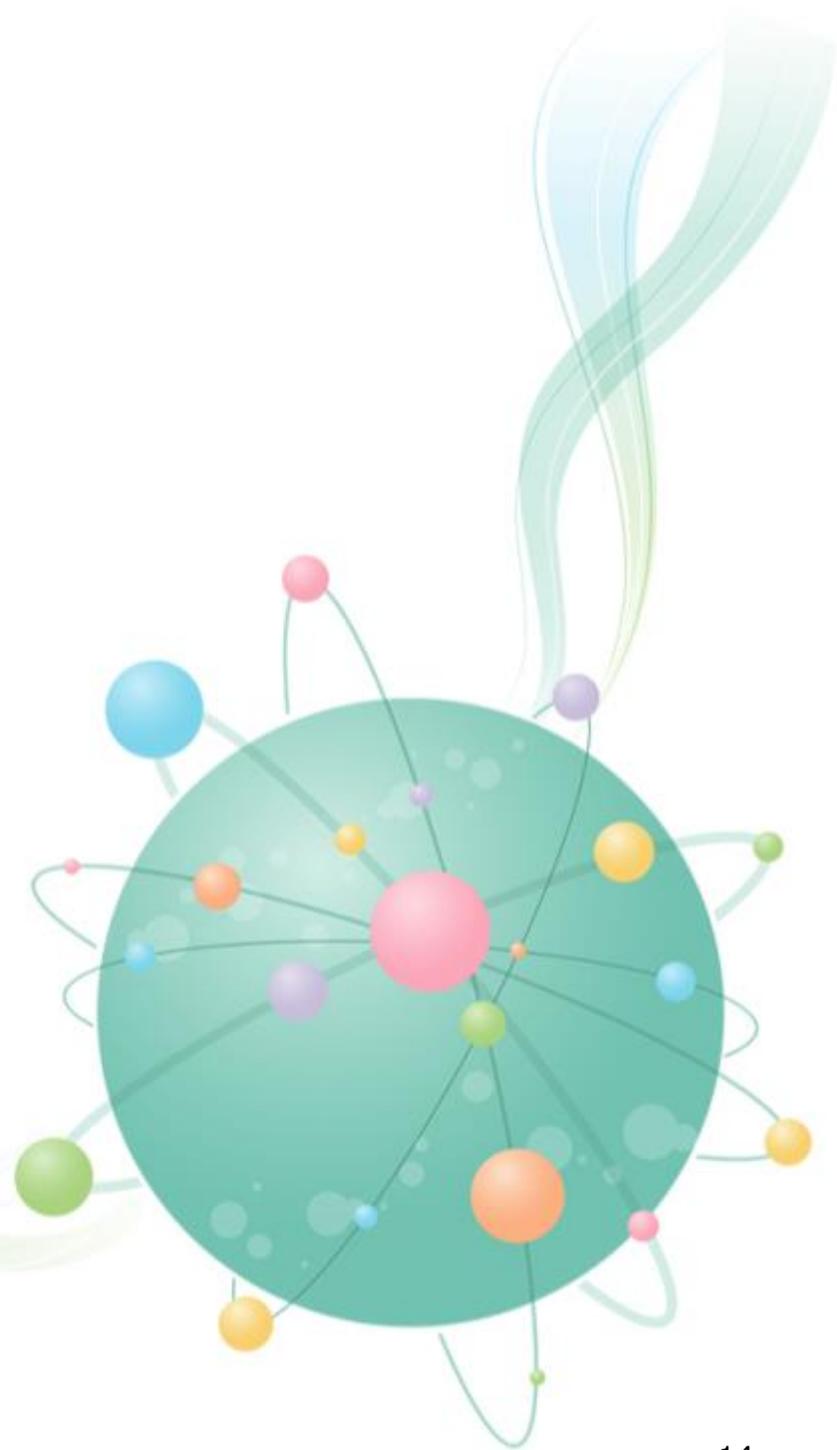


5. 連結業績推移



- 高付加価値品シフト/製品ポートフォリオの転換により高収益体質が定着
- 創出したキャッシュフローにより借入金を大幅圧縮、強固な財務基盤を実現。工場設備投資・研究センター建設等攻めのステージへ移行
 ー借入金残高：2011/3末 208億円 →2019/3末 32億円 (△176億円)

Part II. 經營戰略



1. 経営理念と方向性



経営理念

当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、
広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します

大日本塗料の ポジショニング

ロケーション

- 国内：当社グループのメインマーケットとして重点事業分野に特化
- 海外：特定国の経営環境に対応した事業構造・商品に選択と集中

事業領域

- 構造物、建築物、建材を中心に高付加価値品に重点
- インクジェット・照明機器・蛍光塗料など他社にない独自分野

経営課題

- デジタルテクノロジー発展に伴う産業構造の変革により生じる素材の変化への対応
- 東京五輪後を境にインフラは新設からメンテナンスの時代へ突入、情報力・提案力・販売力構築が急務

商品開発をベースに顧客への
ソリューションの提案力強化

総合サービス力の拡充・強化

カスタマーファースト

お客様の満足度をいかに向上させるかということを第一に考え、お客様との「共存共栄」を図るための行動指針
顧客メリットを考え、他社がやらない、できないことに集中し持続的利益を実現

2. 中期経営計画概要



コンセプト 持続的成長に向けて、新たな高付加価値化へ挑む

① インフラ需要の 確実な取り込み

インフラコーティングPJ

橋梁・
コンクリートシェアアップPJ

② 強みを生かした 市場開拓

構造物橋梁・
プラント新市場開拓

建材事業の高付加価値化

リフォーム事業拡大PJ

産業用インクジェット事業拡大

③ 国内塗料事業の 更なる強化

新素材、新基材への対応

メンテナンス対応の高度化

④ 海外事業の 積極拡大

海外事業拡大PJ

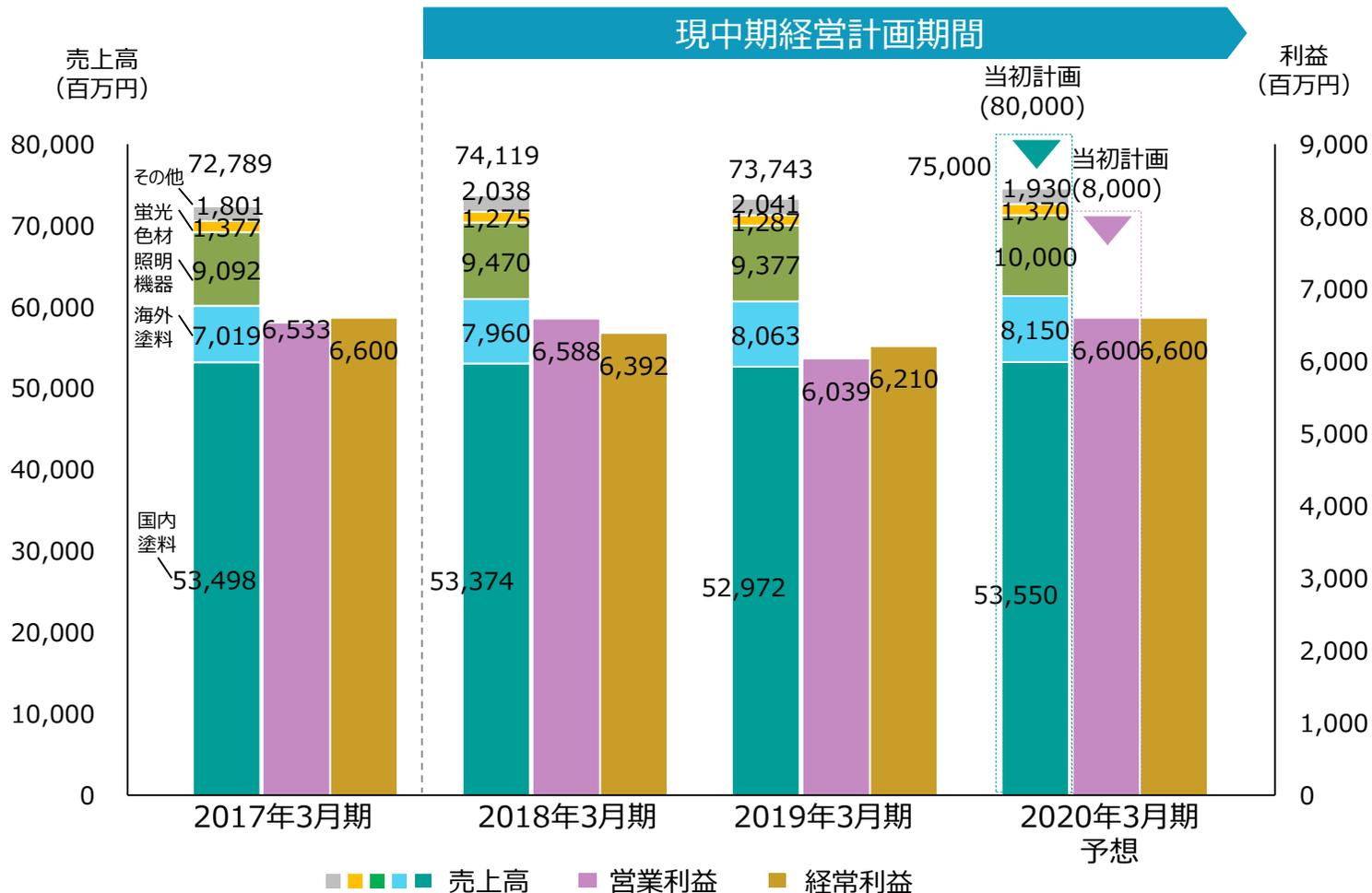
付加価値創出・効率化のための設備・R&D投資

M&Aの推進

	2017年3月期 実績	2020年3月期	
		当初計画	業績予想
売上高	72,789	80,000	75,000
国内塗料	53,498	58,100	53,550
海外塗料	7,019	8,800	8,150
照明機器	9,092	9,900	10,000
蛍光色材	1,377	1,400	1,370
その他	1,801	1,800	1,930
営業利益	6,533	8,000	6,600
国内塗料	3,886	4,910	3,230
海外塗料	1,186	1,580	1,300
照明機器	931	950	1,400
蛍光色材	135	140	130
その他	158	150	260
調整額	234	270	260
営業利益率	9.0%	10.0%	8.8%

3. 中期経営計画進捗状況

- 原材料の価格高騰/設備投資増加に伴う償却費の増加等を要因として当初計画を修正
(売上高800億円 ⇒ 750億円、営業利益80億円 ⇒ 66億円)
- 中期経営計画諸施策については着実な進捗



- ① インフラ需要の確実な取り込み**
 - ✓ オリンピック需要の着実な取込
 - ✓ 首都圏再開発の受注好調
 - ✓ インフラ補修需要獲得に向けた製品ラインアップを拡充
- ② 強みを生かした市場開拓**
 - ✓ 電力鉄塔・通信鉄塔等新市場開拓の進展
 - ✓ カーテンウォールメンテナンスでの画期的新商品上市
 - ✓ 共同開発案件の進展
- ③ 国内塗料事業の更なる強化**
 - ✓ 新素材センター/防食センター計画策定・着工開始
 - ✓ プロセスイノベーションPJ稼働
- ④ 海外事業の積極拡大**
 - ✓ 中国（浙江省）新工場建設着工開始

4. 事業環境認識



- 原材料価格の不安定性に対応しつつ国内インフラ需要を着実に捉えるべく高付加価値化伸展の必要性
- 新興国を中心とした海外需要の拡大に対し現地における増産・ニーズに応じた製品供給対応が必須に
- 素材の革命的な転換、膨大な社会ストックのメンテナンスに対応するための研究開発投資の重要性高まり

	事業環境	今後の方向性
国内塗料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原材料価格の乱高下 ー 2018年3月期後半より高騰、その後2019年3月期後半に低下、不安定な相場が継続 ■ オリンピック需要の最終局面 ■ 人手不足に対応した省工程化・省人化のニーズ拡大 ■ 2025年大阪万博に向けた近畿圏のインフラ需要拡大 ■ オリンピック後にインフラ需要は拡大も長期的に横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売価格是正可能な高付加価値商品の展開 ■ 省工程化・省人化に寄与する商品・工法の開発/LCCに優れた商品の開発 ■ 商品プロモーション強化
海外塗料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新興国を中心とした、市場拡大が継続 ー 北米・中国・東南アジアでの自動車部品市場は堅調 ー 重防食分野で資金・技術移転を伴うODAは今後も伸長 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日系自動車部品メーカーを軸としたサポートビジネス ■ 中国浙江省での新工場による需要拡大への対応 ■ グローバル生産拠点としての東南アジアの役割拡大
機器照明	<ul style="list-style-type: none"> ■ LED市場拡大の一層の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ■ LEDシフトの一層の推進
技術革新への対応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 膨大な社会ストックの経済的メンテナンスが課題 ■ 新素材への対応 ■ 自動車ボディFRP化に向けた対応 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究開発投資促進 ■ 防食センター/新素材センター設立による新商品・工法開発

① インフラ需要の確実な取り込み

- 五輪開催に伴う施設、再開発需要に対し、付加価値の高い遮熱性舗装・CW塗料等の拡販
- インフラ塗り替え市場をターゲット、首都高塗り替え工事を中心とした物件対応によりシェアアップを狙う

東京五輪スポーツ施設関連

- 競技場関連の主要物件を受注
 - ー 武蔵野の森総合スポーツプラザ（2020年東京オリンピック：完工済）
 - ー 熊谷ラグビー場（2019年ラグビーワールドカップ：完工済）
 - ー 海の森競技場（建設中）



武蔵野の森総合スポーツプラザ



熊谷ラグビー場

- 東京五輪と併行し、地方スポーツ関連施設の主要案件も受注



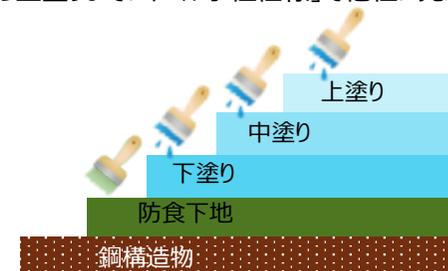
- ー 物件名：新青森県総合運動公園陸上競技場
- ー 設計：伊東豊雄
- ー 塗料：鉄骨＝エポオール、パネル＝Vフロン# 2000
- ー 竣工：2018年12月

橋梁・コンクリートシェアアップ

- 首都高塗り替え工事を中心に、差別化新商品による市場展開、更なるシェア拡大を図る

「DNT水性重防食システム」

- ー 防食下地から上塗りまで「オール水性仕様」で他社に先駆けた採用が進展



- ー ジンクリッチペイントから下塗、上塗までオール水性化を実現（業界初）
- ー 溶剤形比VOC約90%削減／溶剤形比格段の安全性

- 橋梁への水性重防食塗料使用のモデルケース
 - ー 長野国道大原橋（2015～2016）



5. 経営戦略トピックス

②強みを生かした市場開拓

- 高付加価値な差別化商品・ニッチ商品で採算性の高いマーケットを開拓、新型特急に採用
- 4社共同研究による革新的なインフラ設備補修用はく離抑制型塗料を先行発売

鉄道車両新市場開拓

- 金属調塗料「スーパーブライトNo.2000」が西武鉄道の新型特急「Laview」に採用



Laview（出所：西武鉄道株式会社）

- 薄膜で粒子が非常に小さな高級アルミ粒子を使い、配向よく並べることで、塗装面が平滑かつ高輝度な外観を実現



4社共同開発による大型新製品「ケルビンα2.5」

- 塗料メーカー3社（大日本塗料、関西ペイント、神東塗料）と四国総合研究所の共同開発による革新的な「はく離抑制型弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料」
- 予防保全的にはく離リスクを低減することで補修コストの大幅な低減を志向



旧塗膜を残した状態で塗料を塗り重ねることで塗膜のはく離を抑制できるこれまでに類を見ないユニークな塗料

③国内塗料事業の更なる強化(1)新素材センター

- エネルギー消費量削減・CO₂削減方針のもと、あらゆる分野で軽量化新素材の適用増加が見込まれる
- 顧客との共同研究や塗装デモ、技術・デザインプレゼン等により顧客提案力を強化し、一層の信頼獲得を図る

新素材センター（小牧）

【背景】

- CO₂削減に向けた自動車・航空機等の軽量化素材対応
- 耐久性、機能性向上等を目的とした既存素材への工業塗装需要の拡大

【目的】

顧客とともに「コーティングシステム・デザイン・効率的コーティングライン」を作り上げ、総合的なソリューションを提供



新素材センター概要

建設場所 : 小牧工場敷地内
建床面積 552㎡, **延床面積**1,658㎡
竣工 : 2020年4月(予定)
投資総額 : 13.7億円(予定)



新素材センター完成予想図

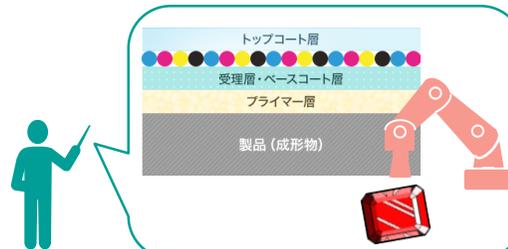
1 顧客が適用しようとしている素材・用途をキャッチ



2 素材の耐性等の性能解析 最適コーティングシステム提案



3 効率的コーティングライン/デザインの共同開発



4 コーティングラインの構成と条件の設計・提案



③国内塗料事業の更なる強化(2)防食センター

- 膨大な社会資本ストックを経済的にメンテナンスするかがテーマとなる中、LCCを踏まえた補修・補強の必要性
- 構造物の新設・メンテナンスにおける商品・技術・情報・サービスのトータルの提供による高付加価値を創出

防食センター（那須）

【背景】

メンテナンス工程の省力化、ライフサイクルコストの低減、作業環境保全、塗膜の劣化予測など多様なニーズに対応

【目的】

顧客とともに「防食分野の塗装対象物を維持管理する上で必要となる商品、技術、情報、サービス」を作り上げ総合的に提供

顧客への
ソリューション提供

- 塗膜及び構造躯体の劣化予測
- LCCを考慮した新設・メンテナンス塗装仕様、効率的施工工法

防食センター概要

建設場所 : 那須工場敷地内
 建床面積 675㎡ 延床面積1,000㎡
 竣工 : 2020年4月(予定)
 投資総額 : 10.2億円(予定)



防食センター完成予想図

①新規寿命予測システムの開発

- 近距離または遠方からの塗膜や構造躯体の劣化診断技術の研究開発



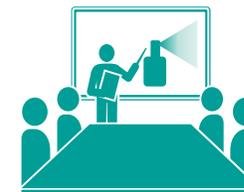
②新設・補修塗装仕様、施工工法の開発

- 様々な現場環境下で実構造物を模擬した構造体を用いた商品・施工工法の開発



③新技術の提案

- 新商品・新工法を実演しながら紹介～顧客にとっての価値を分かり易く提案





③国内塗料事業の更なる強化(3)プロセスイノベーションPJ

- 新しい技術を取り入れ少量多品種生産の抜本的効率向上を図る「プロセスイノベーションPJ」を展開

少量多品種の生産効率改善（小牧工場）

レイアウト改善・工程自動化により人員を最適化し、生産効率を改善

- ①大量生産エリアの集約 ⇒ 2018年1月 部分的に集約第二弾として2019年下期を予定、40%の効率アップ
- ②少量多品種エリアの効率化



CCMと自動調合の連携を検討

- 受注から出荷までの省人化(システム導入・自動化)
- 原料準備、投入作業、補正指示の自動化
- 工程作業の分業化

自動制御（那須工場）

人による設備・生産管理から、IoT,AIの活用検討（'20年度に選定予定）

- 受注から出荷までの省人化(システム導入/事務自動化)

粉体塗料の生産能力増強

大量ライン増設・新型設備導入（稼働済）

- ⇒生産能力25%増強
- ⇒高付加価値の意匠性粉体塗料の生産効率化

- 設備稼働状態の可視化検討
- 連続生産ラインの一元管理



調色工法の効率化

少量多品種の代表格「調色」作業の自動化、データの一元化

- 自動化設備の増強、効率化を検討

④ 海外事業の積極拡大

- 中国（浙江省）に生産能力増強・環境対応を目的に新工場を建設中、2020年10月稼働予定
- タイでは顧客対応力の強化のため、技術部門の機能増強を実施

中国（浙江省 新工場建設）



- 環境安全対策を整備するとともに、溶剤・水系・粉体塗料の新たな製造拠点とし、更なる事業拡大を図る

【工場概要】

会社名 : 迪恩特塗料（浙江）有限公司
資本金 : 12百万USD（約1,400百万円）
出資者 : 大日本塗料（100%）
稼働時期 : 2020年10月（予定）

- 生産能力の増強と環境規制への適応
 - 生産能力を順次拡大、粉体塗料の内製化による顧客対応力の強化
 - 中国における環境安全規制の強化への対応
- 工場稼働後の事業拡大施策
 - 自動車部品メーカーへの販路拡大、エリアを拡大した新規顧客開拓を図る
 - 現地ユーザーに環境問題に対応した産機・建機分野、建築・構造物分野における水性塗料、粉体塗料の拡販を図る



新工場イメージ図

タイ（技術部門の機能強化）



- 自動車関連分野のさらなるシェア拡大に向け、塗料の現地開発・設計機能を増強し、顧客対応力や提案力の強化を図る
- ロボット塗装ブースの新設、試験分析室の拡充を実施し、業務対応力を強化



ロボット塗装ブース

6. その他トピックス

① 製品意匠力アップセミナー/高機能塗料展

- 「製品意匠力アップセミナー」を開催、プリッカー賞受賞の建築家を招聘、デザインの力を活かし、日本の産業界に新たな価値向上、イノベーション創出をもたらすカギを探る
- 塗料業界の総合展示会「第2回 [関西] 高機能 塗料展」に出展

製品意匠力アップセミナー

会期：2019年4月19日（金）
会場：東京デザインセンター ガレリアホール
主催：大日本塗料株式会社
共催：DNライティング株式会社

基調講演：テーマ「環境と建築」
講師：建築家 妹島和世氏/SANAA

- 技術解説-1「話題の鉄道車両にも採用された金属意匠を再現する塗料技術による意匠力アップ」
- 技術解説-2「立体的な質感による触感を表現できるインクおよび塗料による加飾技術『DNTデジタルコーティングシステム』を用いた意匠力アップ

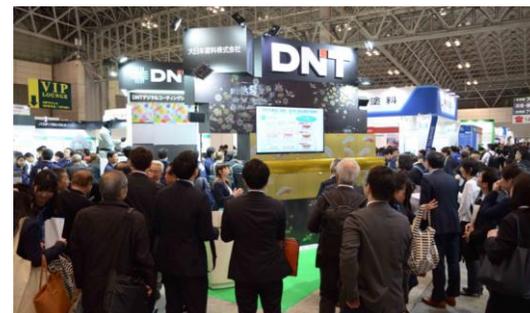


第2回 [関西] 高機能 塗料展

会期：2019年5月22日(水)～24日(金)
会場：インテックス大阪
主催：リード エグジビション ジャパン（株）
共催：（一社）日本塗料工業会
【テーマ】High Technology of Coating

【主な出展内容】

- 工業製品への高意匠付与『DNTデジタルコーティングシステム』
- 素地調整法を大幅軽減！“塗る”素地調整『サビシャット』
- 旧塗膜のはく離を抑制するインフラ設備補修用塗料『ケルビンα2.5』
- 皮脂による塗膜軟化に対応した水性塗料『アクアマリンタックレス』
- 酷暑を打ち返す遮熱塗料『エコクールシリーズ』
- めっき仕上げのような質感を塗料で再現『金属調塗料』
- 耐候性と作業性を両立したふっ素粉体塗料『パウダーフロンSELA』

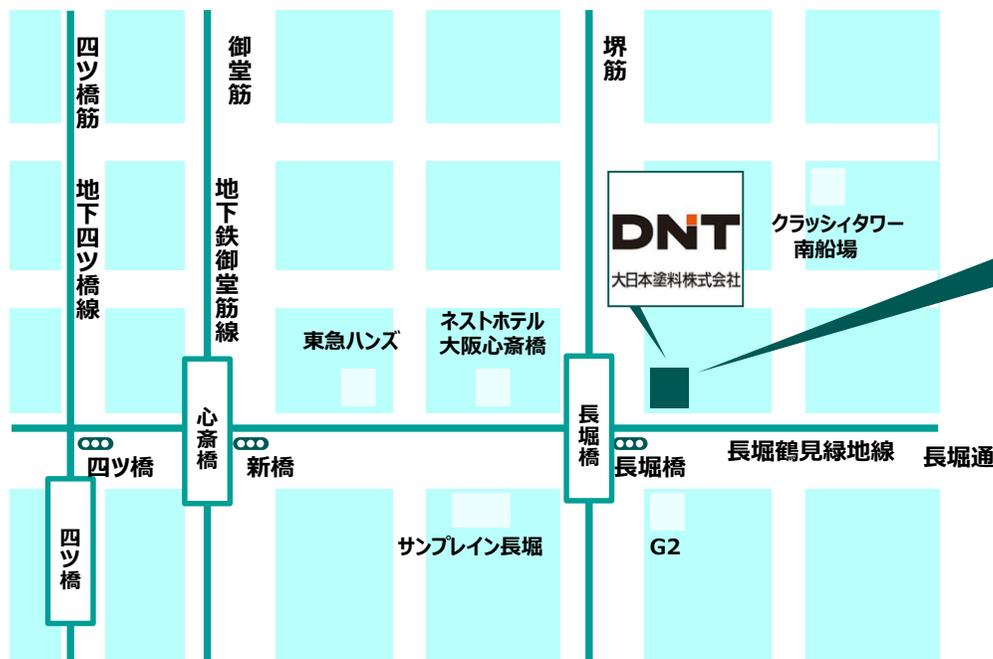


6. その他トピックス

② 本社移転

- 現本社（大阪市此花区西九条）の社屋老朽化対応と、関連部署間の連携強化による業務効率化と執務環境の改善を図る目的で、大阪府中央区南船場に移転予定

新本社移転概要



新本社外観

- 住 所：大阪府中央区南船場一丁目18-11
SRビル長堀 6階～11階（受付8階）
- 最寄駅：Osaka Metro 長堀橋駅（堺筋線、長堀鶴見緑地線）
- 移転予定日（業務開始予定日）：2019年8月13日（火）

Appendix.



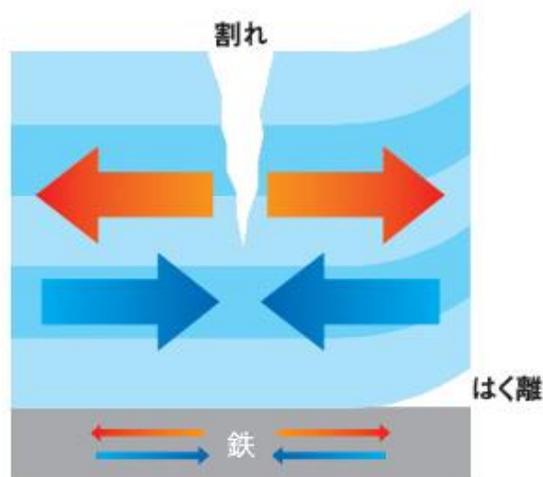
1.製品紹介



①インフラ設備補修用 塗膜はく離抑制型塗料『ケルビンα2.5』

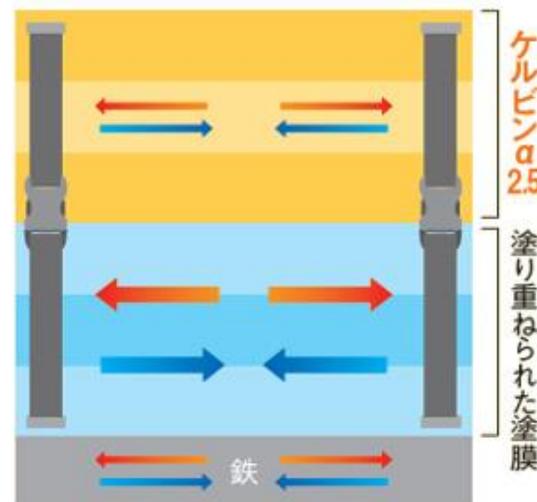
- 大日本塗料、四国総合研究所、関西ペイント、神東塗料との4社共同研究により開発
- 線膨張係数[※]に着目し、重ねて塗るほど剥がれにくいという 従来の常識を覆す塗料

一般的な塗膜



一般的な塗膜は線膨張係数が鉄よりも大きい
→ 伸縮ストレスの相違により、**付着力が徐々に低下**

新型塗料『ケルビンα2.5』



線膨張係数が小さいケルビンα2.5は寸法安定性に優れる
→ 旧塗膜の伸縮を抑制し、はく離抑制機能が向上

※ 線膨張係数とは？

- 線膨張とは全ての物質にみられる熱膨張現象で、温度上昇により物質の長さが大きくなる現象
- 鉄の線膨張率を1.0とすると… 【一般的塗料の塗膜】6.0程度
【新型塗料の塗膜】2.5 → 塗膜はく離の抑制

— 特許取得 —
特許第6330100
特許第6351896

1.製品紹介



②においを抑えたゼロVOC水性塗料『COZY PACK』

- 塗料が発する“におい”を抑え、かつVOC（揮発性有機化合物）を一切含まない人と環境にやさしい水性塗料
- 夜間休日工事を強いられ、工費面で課題を抱えるオフィスビルや商業ビルの内装塗替え市場がターゲット

開発背景

オフィスや商業施設の原状回復工事

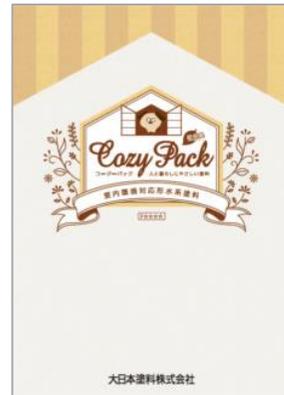
- 塗料による臭気問題から、建物内に人がいなくなる夜間や休日に改修工事が行われることが多い。
- 作業割増金、警備費用、光熱費など施工コストが高む
- 作業人員の確保も困難

COZY PACK

- 昼間でも改修塗装工事が可能な水準までに臭気を低減
→ 施工コストの低減に寄与
- シックハウス症候群の原因物質でもあるVOCを一切含まず、施工者にも入居者にも安全安心な水性塗料
→ 環境安全面で不動産の価値向上に貢献

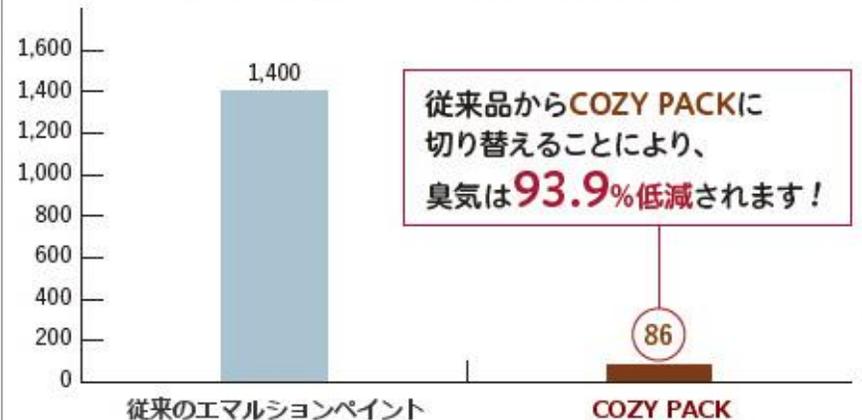


デザイン缶



カタログ

単位重量あたりの塗料の臭気濃度



評価方法 平成7年環境庁告示第63号臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法

2.関係会社事業内容

①照明機器事業 (DNライティング(株)・ニッポ電気(株))

- 高い技術力と商品の完成度が評価され、商業施設用照明機器の分野で独自の強みを発揮。特注対応、施工などの細やかな顧客対応により、百貨店や高級ブランド店では高いシェアを獲得
- 高付加価値品と廉価汎用商品の開発によるバランスのとれた生産体制を構築し、競争力強化を図る

建築化照明



MARK IS 福岡ももち

施主：三菱地所株式会社
設計監理：三菱地所設計・竹中工務店共同企業体
照明計画：LIGHTDESIGN INC. 撮影：後藤晃人



上越市立水族博物館 うみがたり

施主：上越市
建築設計/照明計画：日本設計
撮影：畑拓

- 間接光、透過光、直接光で、建築物をより快適に美しく演出

店舗照明



A PIT AUTOBACS SHINONOME

施主：株式会社オートバックスセブン
設計：有限会社トネリコ 撮影：佐藤久



A PIT AUTOBACS SHINONOME

施主：株式会社オートバックスセブン
設計：有限会社トネリコ 撮影：佐藤久

- 様々な色温度、配光、サイズ、形状の照明器具を求める設計者やデザイナーの要望に応え、商品をより美しく演出

LED関連の競争力強化への取組み

- LED関連商品の競争力強化
 - － 高付加価値品と廉価汎用商品の二極化傾向に対応できるバランスのとれた生産体制の構築



プロフィールシステム



ミニレールスポット

- 新市場の開拓
 - － 製品組込み照明市場の開拓
 - － 産業機器分野・農業分野（野菜・きのこ）等へのPR営業強化



きのこ育成用LEDモジュール



2.関係会社事業内容

② 蛍光色材事業（シンロイヒ(株)）



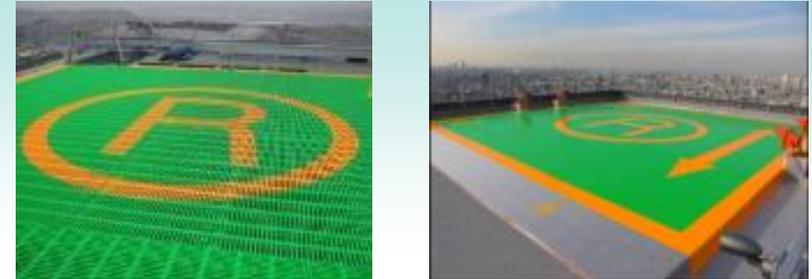
- 蛍光色材会社として、蛍光塗料・顔料における圧倒的な国内シェア
- 素材の製造・販売から、特殊な蛍光塗料を使って建物の内外装デザインまで手掛ける

安全防災マーキング



- 駅ホーム落下防止安全対策のCPラインや河川水害対策の量水標で使用されている蛍光塗料

ヘリポートサイン



- 高層ビルの災害時に効果を発揮する緊急離発着場専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 衣服など繊維の染色や印刷用途で使用されている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

本日はありがとうございました



彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 経営企画室

.....
電話：06-6466-6651
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。